



C分科会 「健康住宅と素材」

司 会 久米 えみ (長野建築士会)
 アシスタント 田中 みちよ (新潟建築士会)
 アシスタント 伊藤 寿良子 (埼玉建築士会)

出席者 30名

分科会主旨

分科会的主旨

現在では超高齢社会の到来や地球環境破壊の進展、また住宅の高性能化に伴う新たな対応など、「健康住宅」のあり方を見直さねばならない時代が訪れています。しかしそもそも、健康住宅の定義とはいったい何だろうか？

この分科会では、住宅に使用する素材＝健康住宅としての大事な要素ということを中心に、住宅の「健康」を視覚・聴覚・臭覚・触覚的なアプローチから自然素材(木材)のもつ魅力が棲む人の心の健康(やすらぎ・和み・癒し)にどう繋がっていくものなのか?を、「木の国美作ネットワーク」岡山建築士会の活動紹介をとおして、皆様と考えていきたいと思えます。また「ニッポンの建築素材」の編集話などをとおして建築素材の地産地消のメリットやデメリットの話まで発展したい。

活動報告

「建築素材『木材』の可能性 —美作スケルトンの取り組み」

コメンテーター 山名 千代 (岡山建築士会)

岡山県の北部「みまさか」は林業の盛んな地域で、桧、杉、松など質の良い木材を供給しています。特に、桧は「美作桧」柱材のブランドとして出荷しています。

2008年に美作材を取り扱う木材関係者が、「木の良さ」や「木の住い」に関する正しい情報を、広く発信するために「木の国美作ネットワーク」を設立。木の家相談室や木の勉強会、伐採体験ツアーなどを行っています。昨年度は、設計事務所と工務店がペアを組み『スケルトンインフィル』、『住み継ぐ』、『美作桧』、というキーワードで「みまさか木の家」美作スケルトン設計コンテストを開催しました。

「ニッポンの建築素材」編集委員(宮本伸子、大川友理枝、永井香織、山名千代)

今年1月に出版された、全国女性建築士連絡協議会から生まれた「ニッポンの建築素材」～守り伝えたい身近な素材～の編集に携わり、素材の世界は広く、数多くの新しい発見がありました。建築素材のよろずごと、こぼれ話など、本書の楽しみ方のお話をお聞きしました。

意見交換

国内の木材を建築用材として使用する事と建築物の『健康環境』はかなり密接な繋がりがある。改めて自然素材を建築に多用する事がどういうメリットにつながるのか?を今後より具体的に全国女性建築士連絡協議会から発信していきたい。そのためにも情報を集めたり・建築士として共有していくことを、今後継続させる事が大切。

建築材としての品質や自然素材としての沢山のメリットを活かすためにも木材は天然乾燥をおこなう事が重要だと最近分かってきたが、しかしながら他の素材に関しても共通で市場経済と価格のバランスにおいて素材の価値だけを追及できない現状を今後どう打破していけるのか。また日本の木造住宅に素材からの視点も加える事は、今後重要な項目のひとつではないか。現在の国の長期優良住宅基準など高耐久・高性能の観点からだけでは木造住宅の多くの価値にたいして相反する項目が少なくない。これらのことは今後の大きな課題でもある。